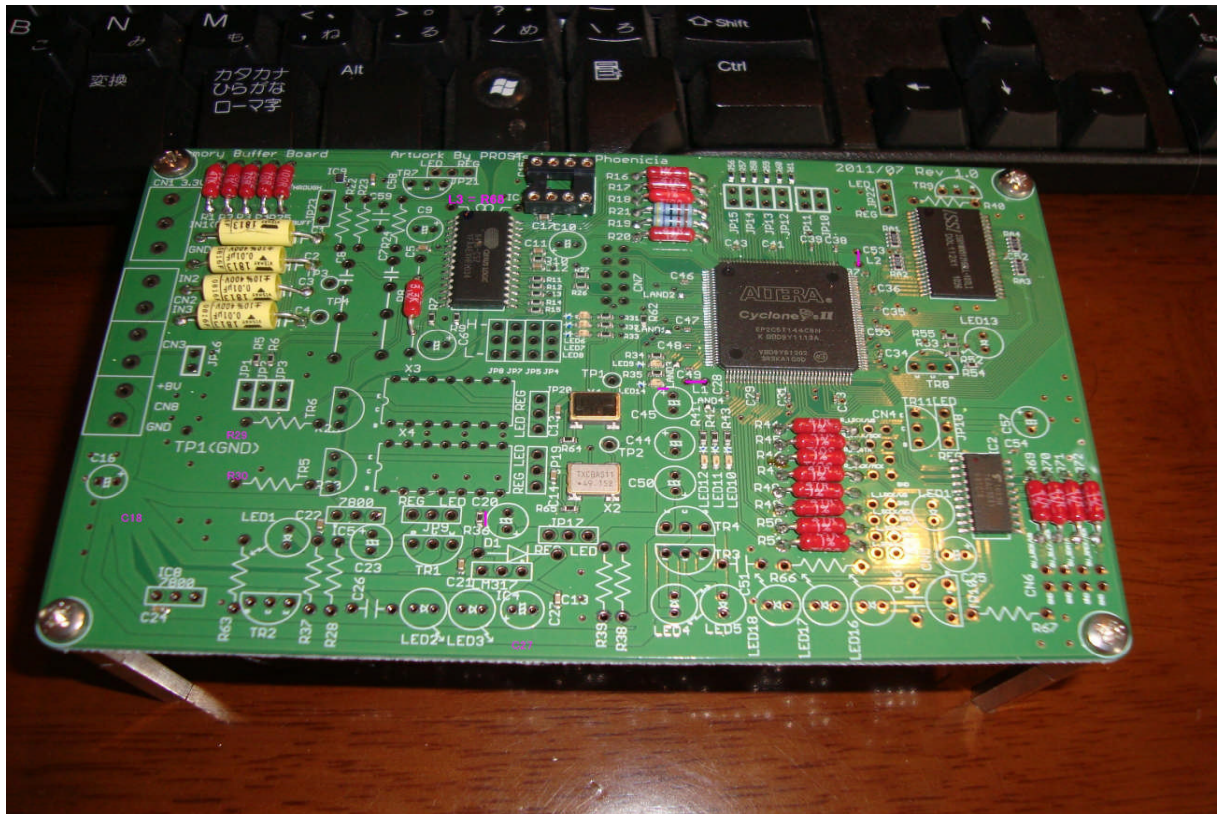
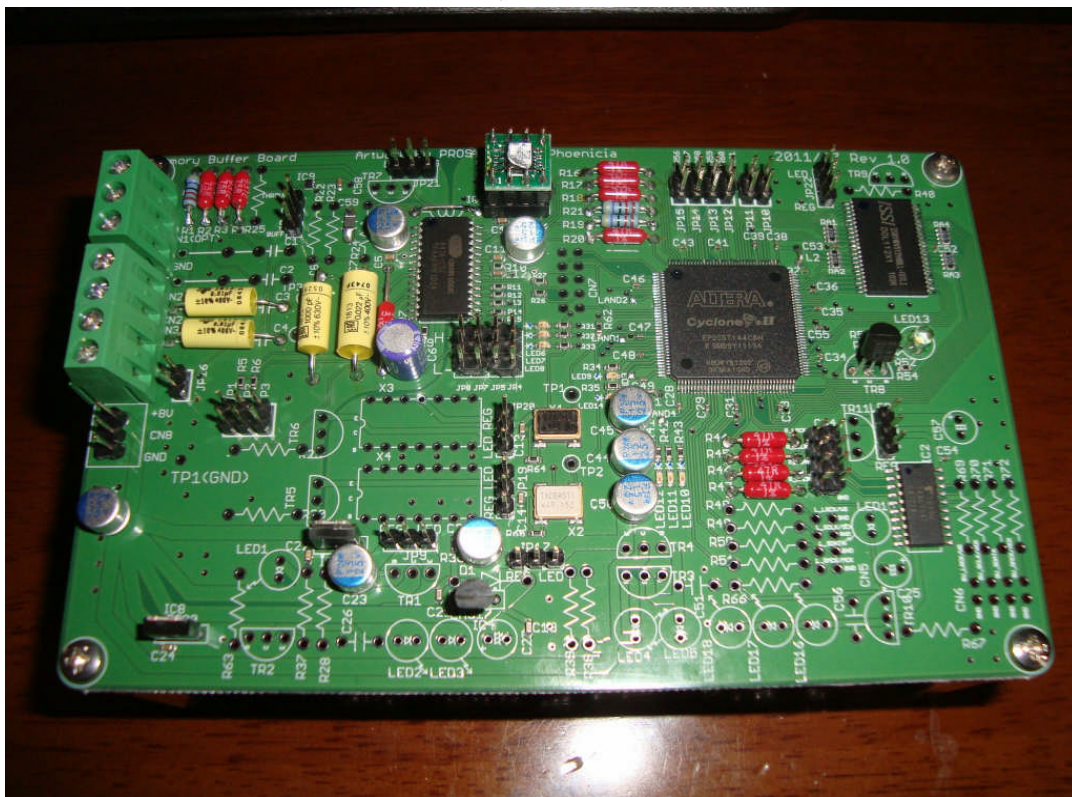


MEMBUF組み立て情報

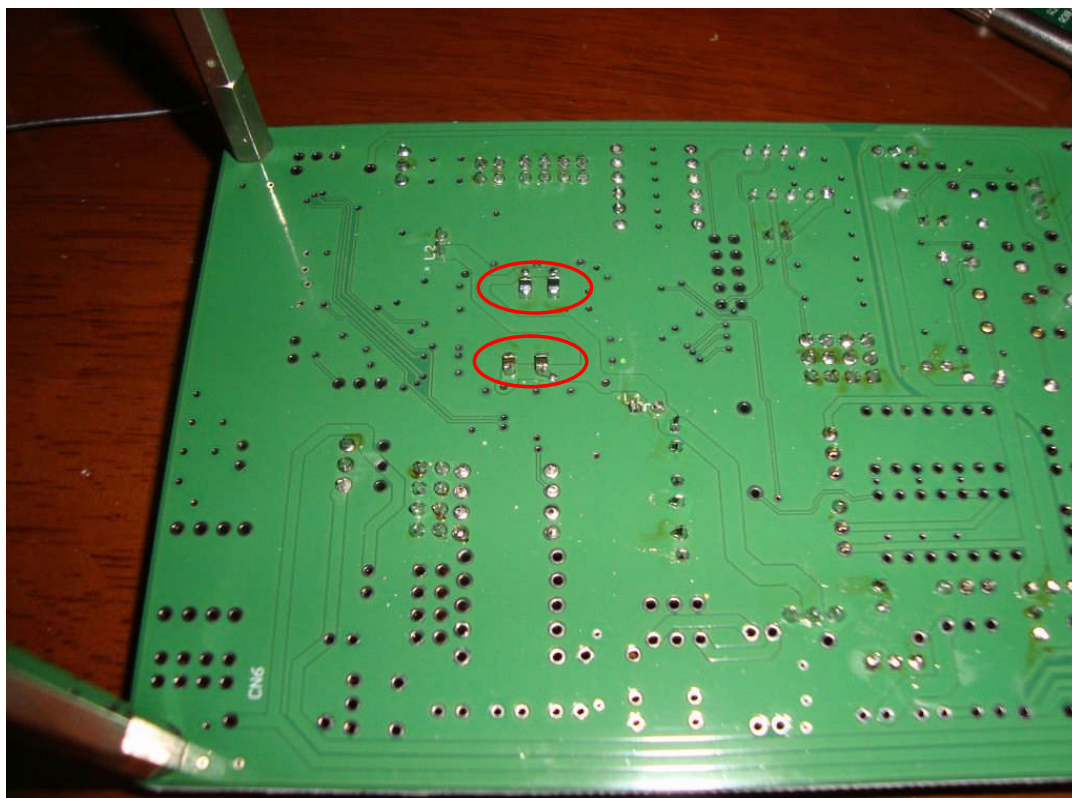
シルクの見えにくい所を図示しました。IC6の左側IC7の上にあるコイルのシルクがR68です、回路図上はL3です。
LED14とR36にマーキングしてあるのは隣の部品とぶつかりやすいので注意してくださいという意味です。



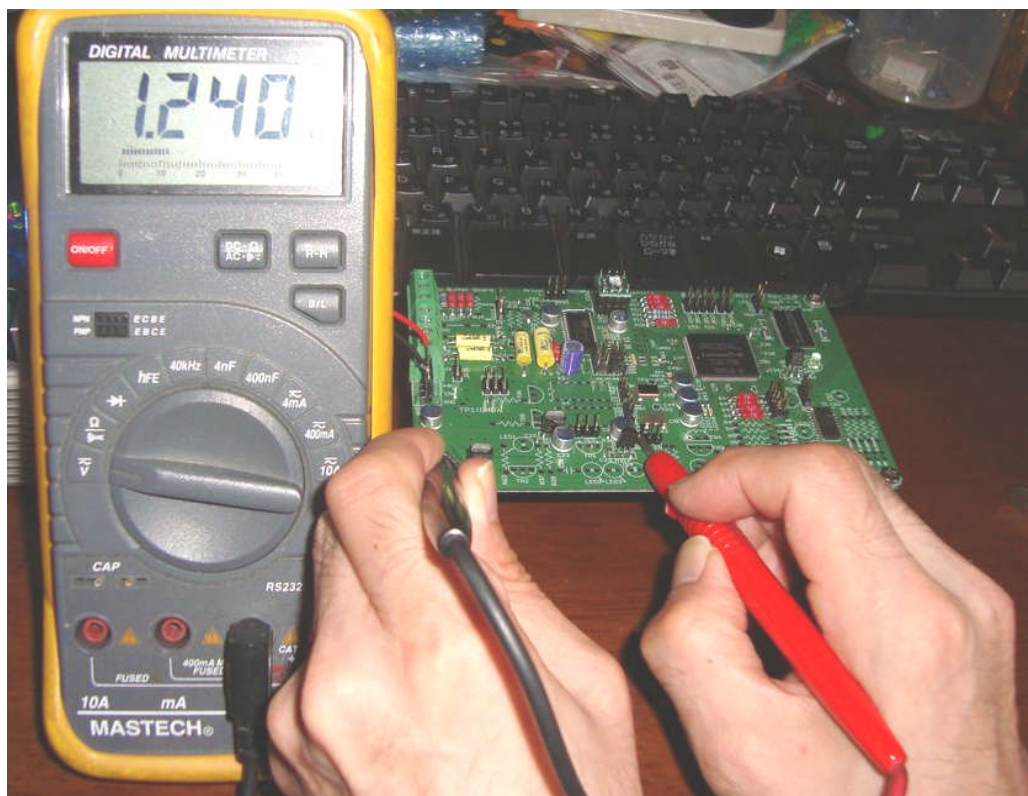
この基板は色々な人の意見を取り入れて、色々なことが出来るようになっています。
逆にシンプルに音を出すだけならば最低限下図のような構成でちゃんと音が出ます。後にジャンパーは必要です。



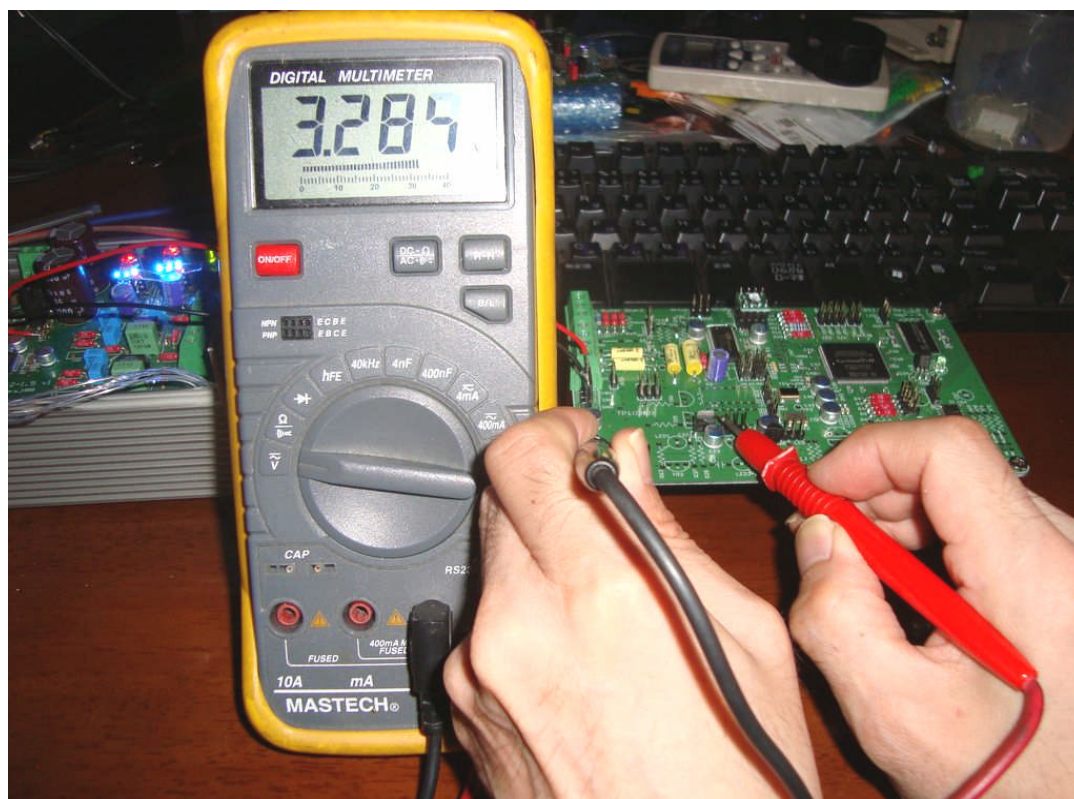
基板裏の赤丸の部分のコンデンサは必ず取り付けてください。



ここまで組んだらまずは電源系が正常かどうかチェックして下さい。
まずは1.2V系です。テスターの黒い方をC8の下に3つ並んでいる穴のどれかを触して下さい、GNDであればどこでも良いです。C8の右上にTP1(GND)とありますがこれは私のミスでどこにもつながっていないので使わないでください。
テスターの赤い方をJP17の左側に当てて下さい。
電源をすぐ切れる様にスイッチに手をかけたまま電源を入れます、1.2V前後の電圧が出てくればOKです。
極端に低い電圧や極端に高い電圧が出た場合には瞬時に電源を切ってください。



次に3.3V系のチェックです。
テスターの赤い方をJP9の左側に当ててください、これもまた3.3V前後の電圧が出てきます。



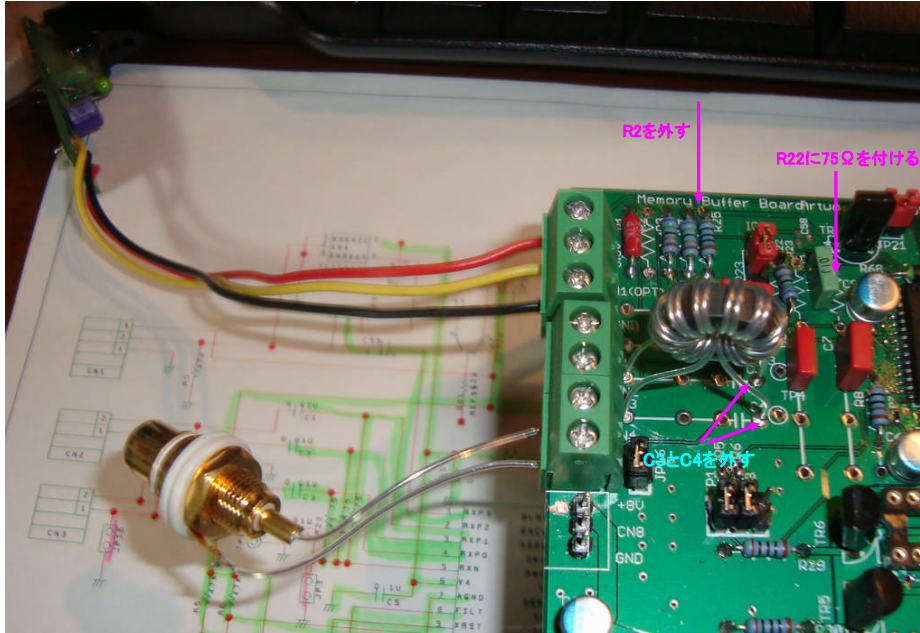
次に5V系のチェックです。(3.3V系のDACを使う方は必要ありません。IC8も取ってしまって下さい。)
テスターの赤い方をJP18の下側に当ててください、ここは入力した電源電圧に近い電圧がでてきます。
ここはちょっと私の設計ミスです、IC8の出口に0.1uf程度のコンデンサを付けておけば5V前後の電圧になります。



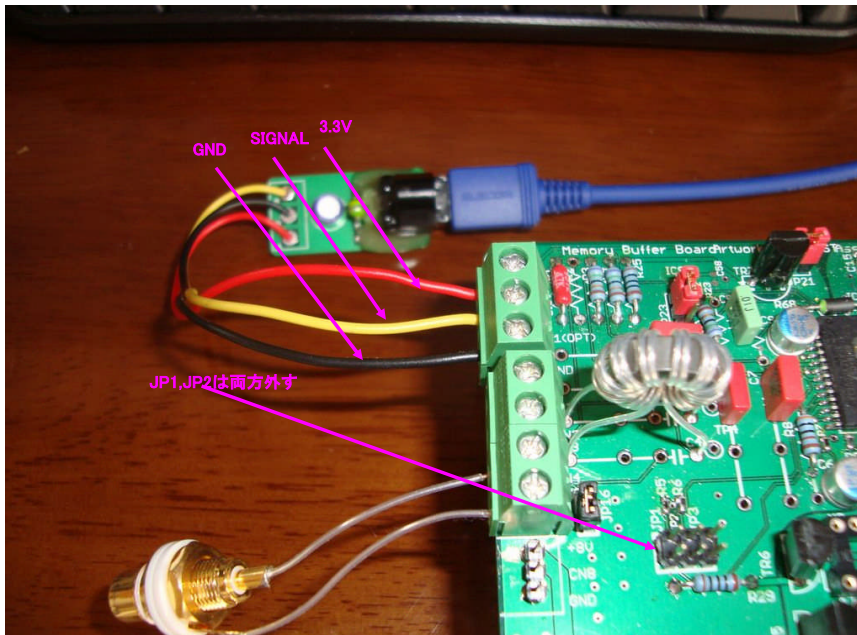
さて、ここまで来ると後は音出しです。

入力周り接続方法

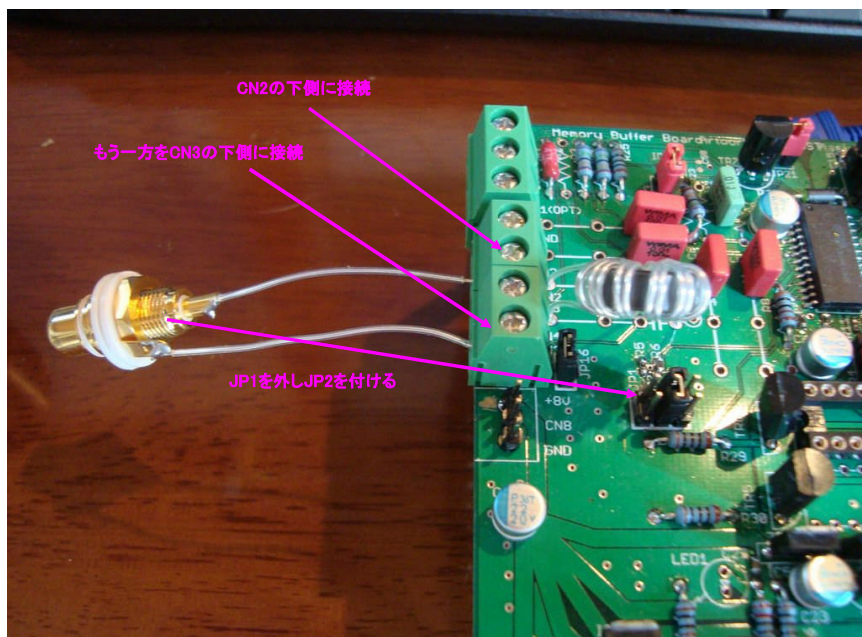
IN4とRXNを使用してパルストランス入力にした場合
分り易いようにパルストランスの足は長くしてあります。
C3,C4を外します
R2を外します
R22に75Ωの抵抗を付けます



光入力を使う場合
CN1のpin配置は上から電源(3.3V)、信号、GNDです。5Vの受光素子を使う場合電源をIC2の20番pinから取って下さい。

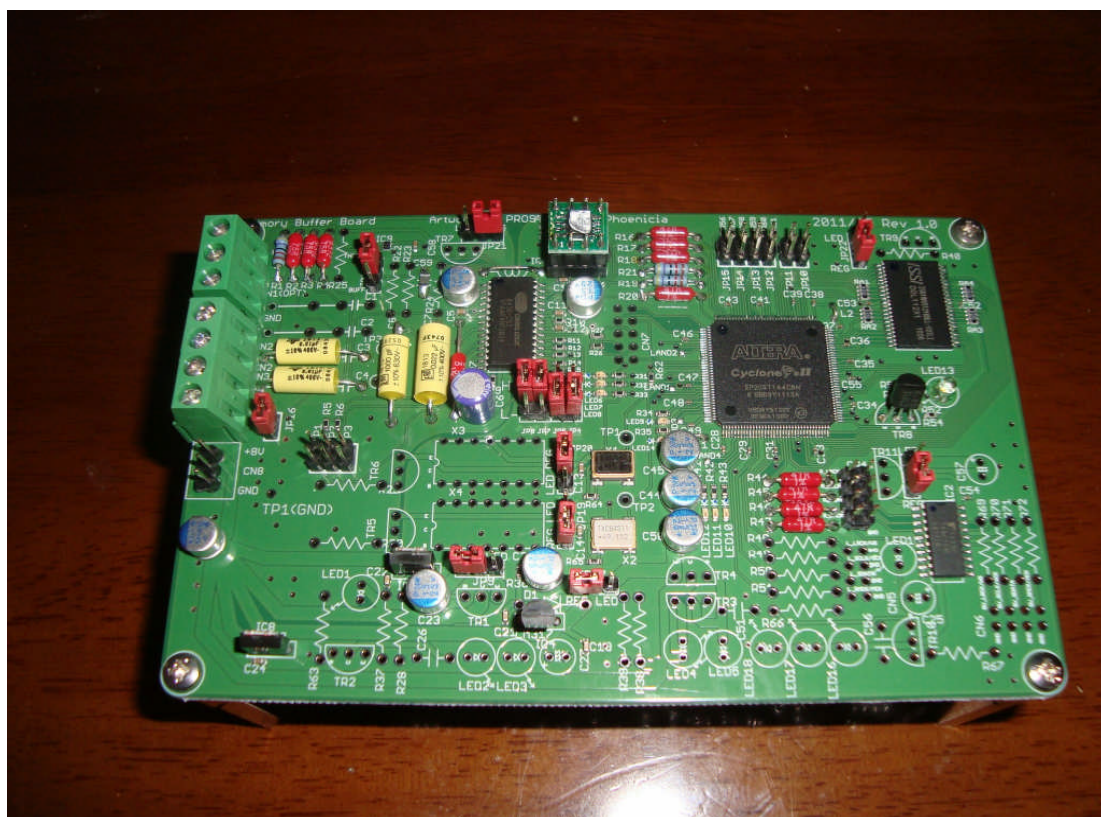


IN3を使ってごく普通に同軸接続した場合

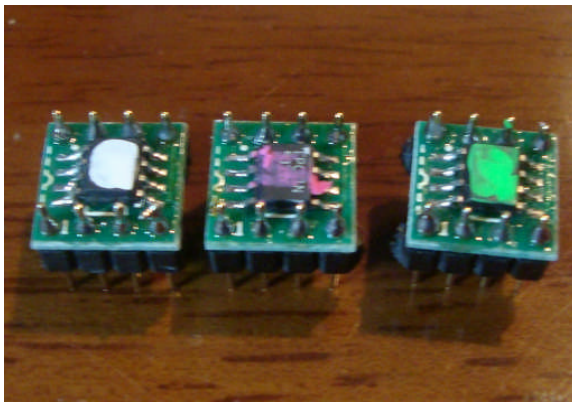
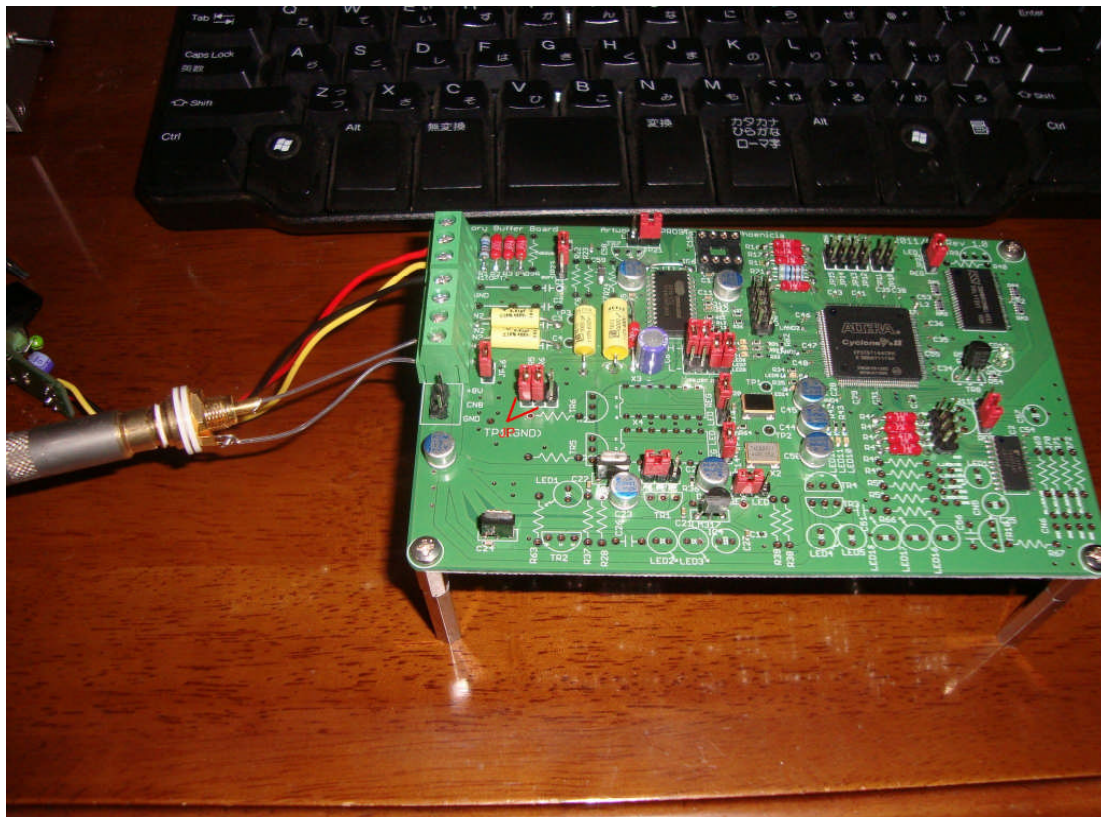


MEMBUF基板、音出し確認

DACを1台しか使わない場合 (ほとんどこれでしょう) はCN4から信号を取り出して下さい。
ジャンパーピンは下の写真の設定にすれば光入力でFN1242やPCM1794で音が出ます。その次にコアキシャル入力の場合を載せます。
PHILIPS系のDACを使う人はR69,R70,R71,R72を取り付けてCN6に接続して下さい。



これがコアキシャルの時の接続です。
JP1とJP2にジャンパーピンを付けただけです。



ROMの種類

白が標準(ユニバーサルタイプ) ピンクがコレッキリ22M 緑がコレッキリ11M